

飯田市スポーツ推進計画 【第2次改定版】

～ スポーツを通じて人と地域が

輝く社会（まち）飯田 ～

令和3年4月1日

飯田市教育委員会

目 次

第1章	スポーツ推進計画の基本的な考え方	1
1	計画策定の趣旨	1
2	第2次計画の策定を取り巻く動向	1
3	計画の性格	2
4	計画期間	2
第2章	これまでの成果を踏まえた計画の基本方針	3
1	計画の基本理念	3
2	第1次計画の総括と数値から見る進捗	4
	(1) 子どもの体力・運動能力	
	(2) 成人の日常的なスポーツ習慣	
3	第2次計画に向けた課題	6
4	計画の構成	7
5	重点的に取り組む事項	8
第3章	計画の基本目標と施策の展開	9
基本目標1	スポーツによる健康・体力の向上	
	1 子どもの体力・運動能力の向上	9
	2 日常的なスポーツ習慣の推進と健康づくり	12
基本目標2	競技力向上の推進	
	1 全国的・国際的に活躍する選手の育成	17
	2 小学校・中学校・高校を通して継続的にスポーツ活動ができる体制・仕組みづくり	18
基本目標3	スポーツを支える人材の発掘・育成	
	1 スポーツ指導者の発掘と資質向上	19
	2 スポーツボランティア人材の育成	20
基本目標4	スポーツを通じたコミュニティづくりと交流の拡大	
	1 コミュニティスポーツの推進	21
	2 スポーツ交流圏域の拡大	22
基本目標5	障がい児・者と一緒に楽しめるスポーツの推進	
	1 障がい児・者スポーツ・レクリエーション活動の充実	23
基本目標6	スポーツ施設の整備・充実	
	1 スポーツ施設の適切な運営・管理	24
	2 スポーツ施設の整備・充実	24
	3 学校体育施設の活用	25
第4章	施策の推進体制	26
1	施策推進体制と役割	26
2	計画の検証・評価	27
<資料編>		
1	飯田市で管理する体育施設一覧	28
2	飯田市スポーツ推進審議会	31

第1章 スポーツ推進計画の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

近年、少子高齢化の進行、人間関係の希薄化、高度情報化社会の進展など、社会環境や価値観の急激な変化に伴い、スポーツをとりまく環境も変化してきています。

子どもたちの体力の低下、日常的に運動をする子どもとそうでない子どもの二極化、働き盛り世代における運動不足によるストレスの増大や心身の健康問題、高齢期の健康寿命延伸に向けた習慣的な運動の必要性、日常的な身体活動量の減少によるロコモティブシンドローム^{※1}の増加など、スポーツに関連する課題は増大しています。また、地域コミュニティを活性化し、地域住民の一体感や活力を醸成するうえでも、スポーツの役割が大きくなってきています。

こうしたことを背景として、国はスポーツに関する基本理念を定め、国と地方公共団体の責務等を定めた「スポーツ基本法（平成23年法律第78号）」を制定しました。飯田市では、同法に基づき平成32（2020）年度を目標年度とする飯田市スポーツ推進計画（以下「第1次計画」という。）を平成29年度に策定し、子どもたちの体力・運動能力や成人の日常的なスポーツ習慣が向上するなど一定の成果がありました。

令和2年度末の第1次計画の計画期間終了に伴い、リニア時代の到来が一層近づき、また新型コロナウイルス感染拡大などの新たな課題も生じる中、飯田市の今後のスポーツ行政を総合的に推進するため、飯田市スポーツ推進計画を改定（以下「第2次計画」という。）することとしました。

※1 ロコモティブシンドローム：疾患や加齢等に伴う運動器（身体を動かすときに連携して働く骨、関節軟骨、椎間板、筋肉、神経系など）の障害のために自分で移動する能力が低下して介護を必要とする状態、あるいは要介護リスクが高まった状態。

2 第2次計画の策定を取り巻く動向

2017年に策定された国の第2期スポーツ基本計画においては、「スポーツの価値」について、「スポーツで人生が変わる」「スポーツで社会を変える」「スポーツで世界とつながる」「スポーツで未来を創る」という4つの観点から、スポーツ参画人口を拡大し、他分野との連携・協力により「一億総スポーツ社会」の実現に取り組む基本方針が提示されています。2018年には、国民全体の週1回以上スポーツ実施率の向上のための新たな行動計画として「スポーツ実施率向上のための行動計画（2018年9月）スポーツ・イン・ライフを目指して」が取りまとめられるなど、スポーツ参画人口の拡大に向けた様々な取り組みが進められてきています。2019年にはラグビーワールドカップが日本において開催され、東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催も控える中、スポーツへの関心は高まっています。

中学校の運動部活動に対しては、一部過熱化による長時間活動、勝利至上主義、スポーツと生活のアンバランスなどの課題に対応するため、平成30年3月にスポーツ庁から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」、平成31年2月に長野県から「長野県中学生期のスポーツ活動指針」（改定）が示されました。飯田市でも「飯田市中学校部活動の活動指針」を令和2年9月に施行し、指針に沿った適切な活動時間、適切な休養日の設定等による、中学生の心身の健やかな成長、将来にわたる豊かなスポーツライフの構築を目指した、適切なスポーツ活動の実施が望まれています。

令和2年9月には「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」（スポーツ庁ほか）により、令和5年度以降段階的に休日の部活動を地域へ移行し、合理的で効率的な部活動の推進を行うとされています。これは、部活動が学校教育の一環であり、人間形成の機会、多様な生徒が活躍できる場であるとしつつも、教師の献身的な勤務によって支えられている現状を変え、休日の部活動を地域の活動として実施できる環境を整えることとされており、中学生、教師、指導者、地域それぞれがよい関係を保ちつつ、よりよいスポーツ環境の整備に向けた取り組みの加速が求められることとなります。

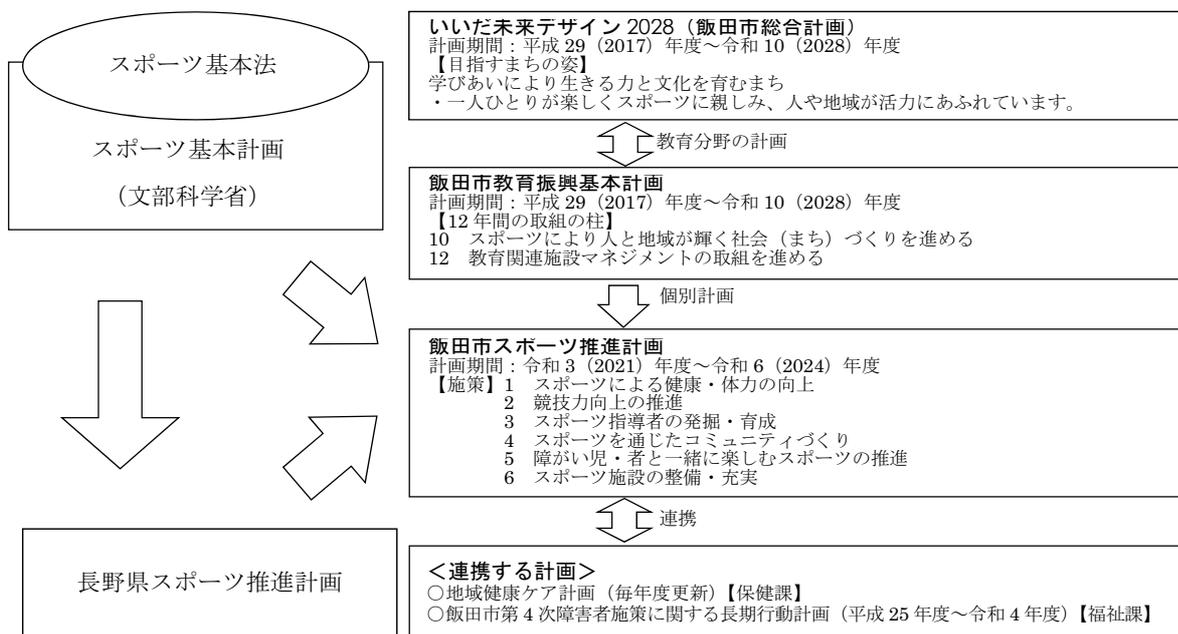
3 計画の性格

飯田市スポーツ推進計画は、平成29年度を初年度とする「いいだ未来デザイン2028（飯田市総合計画）」「第3次飯田市教育振興基本計画」に対応するスポーツ分野の個別計画として位置づけ、今後のスポーツ推進のための基本方針・基本目標・施策の展開について明らかにします。

4 計画期間

計画期間は、令和3年度を初年度とし、令和6年度を目標年度とする4か年間で対象とします。なお、計画期間内であっても、新たに計画に盛り込むべき事項が生じた場合は、必要に応じ計画を見直します。

【計画の関連図】



第2章 これまでの成果を踏まえた計画の基本方針

1 計画の基本理念

「スポーツを通じて人と地域が輝く社会（まち）飯田」

飯田市は豊かな自然・文化に恵まれ、公民館活動などの住民の主体的な取り組みにより多様なスポーツ活動が展開されています。

スポーツは個人の心身の健康増進のみならず、地域コミュニティづくりにもつながります。特に子どもにとって正しいスポーツは健全な身体と豊かな心を育む重要な活動となっています。また、市民の身近で高いレベルの競技がみられることや地元出身のアスリートが輩出されることは、市民のスポーツへの関心を高めるとともに、市民に夢と希望を与えることとなります。

そこで飯田市では、生涯スポーツの推進、コミュニティスポーツ^{※2}の推進、競技スポーツの振興を通して「人と地域が輝く社会（まち）」をめざすこととし、併せて、市、学校、（公財）飯田市スポーツ協会、スポーツ推進委員、スポーツ関係団体及び市民などの多様な主体が互いに協働しながら、社会（まち）づくりを進めることを基本理念としています。

※2 コミュニティスポーツ：市町村などの地域社会で、住民が自発的に行うスポーツ活動。肉体的、精神的向上だけでなく地域社会の連帯を強めることを目的とする。

2 第1次計画の総括と数値から見る進捗

「スポーツを通じて人と地域が輝く社会(まち)飯田」を理念に、第1次計画では6つの基本目標を掲げて取り組んできました。

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. スポーツによる健康・体力の向上 | 2. 競技力向上の推進 |
| 3. スポーツを支える人材の発掘・育成 | 4. スポーツを通じたコミュニティづくり |
| 5. 障がい児・者と一緒楽しめるスポーツの推進 | 6. スポーツ施設の整備・充実 |

【一次計画期間における主な取り組みと成果】

- 春の飯田やまびこマーチや秋の風越登山マラソン大会、月いちウォークなどのイベントを、多くのボランティアの協力を得て実施してきました。飯田やまびこマーチの参加者は増加傾向にあり、ここ数年は4,500人前後で推移するとともに、飯田市民の参加者数も増加しており平成31年度は全体の85%を占めるまでになっています。
- 運動神経系の発達に有効であるコーディネーショントレーニングを保育園や小学校で実施したほか、市内の小中学校では各校独自の一校一運動の実施など、子どもの体力の向上に努めてきました。
- 中学生が多様なスポーツ活動を行うことができるよう、（公財）飯田市スポーツ協会と共に各競技団体の協力を得て「全市型競技別スポーツスクール」を令和2年9月から本格実施し、13種目^{※3}が実施されています。

※3 令和2年度実施種目：バレーボール、バスケットボール、サッカー、テニス、ソフトテニス、卓球、バドミントン、陸上、空手、弓道、柔道、スキー・スノーボード、コーディネーショントレーニング

- 年齢や障がいに関わらず誰もが取り組めるワンバウンドふらば〜るバレーや囲碁ボールなどのニュースポーツを始めとしたコミュニティスポーツが、各地区の公民館やスポーツ推進委員を中心に推進されており、コミュニティの醸成に役立っています。
- 中央道沿線都市親善スポーツ大会への参加が三遠南信圏にも広がるなど、三遠南信圏域においても競技スポーツを通じた交流が進んでいます。
- 飯田市総合運動場陸上競技場を令和1年度に大規模改修し、陸上2種公認競技場としての規格を維持しました。また、アクアパーク50mプールに観覧席を設置し利便性を高めました。

【数値から見る進捗状況】

第1次計画においては「子どもの体力・運動能力」と「成人の日常的なスポーツ習慣」の2点を数値達成目標として設定してきました。

(1) 子どもの体力・運動能力

指標名	平成27年度の数値		令和1年度 【目標:全国値以上】未達成	
	運動能力総合評価のA・B評価（運動能力が高い）の割合 （調査対象である小学校5年生と中学校2年生の平均値）	飯田市 38.3%	全国 42.3%	飯田市 38.5%
	参考（長野県 42.9%）		参考（長野県 44.4%）	

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

生活様式の変化や情報機器等の発達などにより、日常生活における子どもの身体活動の減少やスポーツ活動時間が減少し、基礎的な体力や運動能力が低下傾向にあります。また、スポーツや運動を積極的に行う子どもとそうでない子どもの二極化も進んでいます。

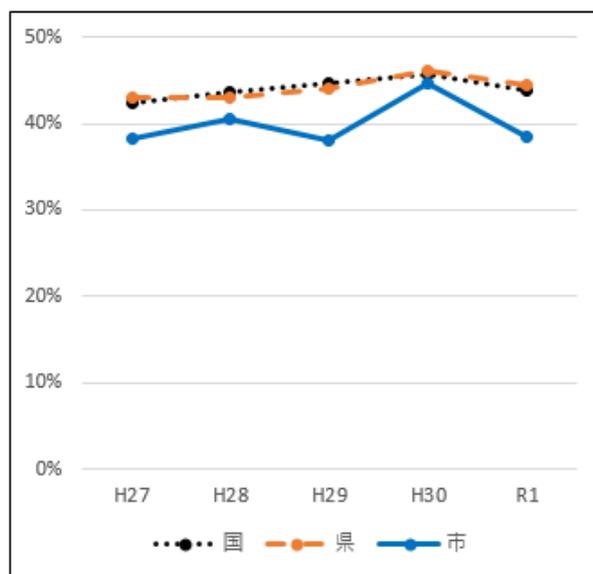
子どもたちがスポーツに親しみ、その楽しさや喜びを味わう機会を確保し、体力や運動能力が向上することは、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現や競技力向上につながります。

第1次計画期間中においては、総合評価上位（A及びB）の割合は平成27年度の38.3%から、令和1年度は38.5%へと上昇しました。

全国値との差については平成27年度の4.0ポイント差から、平成30年度には1.0ポイント差まで縮まりましたが、令和1年度は5.3ポイント差へと広がっています。

飯田市は通学範囲が広いと、徒歩通学をすることで日常的に運動が行われる面と、車による送迎が多くなり運動が少なくなる両面の影響があり、例えば小学校では天竜川東側で指数が高い傾向がみられます。

令和1年度の全国的に指数が低下していることについて、スポーツ庁ではテレビやパソコン、スマートフォンなど画面を見る時間が増加したためと分析しています。この低下が一時的なものか、長期的なものになるか、今後の推移をみていく必要があります。また、新型コロナウイルスの感染拡



大につき、令和2年から大勢で運動する機会や時間が減ってきており、影響の拡大も心配されます。いずれにしても、指数については地域の立地条件等様々な観点がありますので、引き続き分析を続けていきます。その際、分析の基盤となるデータについて、全国体力・運動能力調査における測定は、体育の専科でない教員が多く行う小学校において特に誤差が大きいとの指摘があり、必要に応じて測定方法の説明会や研修を実施します。

また、各小中学校においては、それぞれの状況に応じた一校一運動について、体力・運動能力、運動習慣等調査の結果をもとに運動内容を組み立てることで運動能力の向上を目指しており、優れた内容を共有するなど、取り組みを継続していきます。

なお、子供の運動習慣・運動能力の土台として、外遊びや徒歩による登下校、異年齢交流や世代間交流などの日常的な活動が果たす役割が大きく、その基盤は、安全・安心な地域にあることから、地域をあげての取り組みが望まれます。

【目標 : 令和6年度 全国値以上にする】

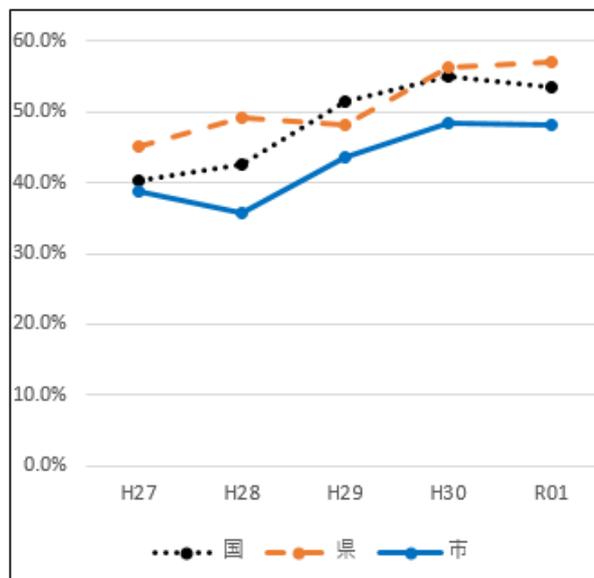
(2) 成人の日常的なスポーツ習慣

指標名	平成27年度の数値		令和1年度 【目標:45%以上】達成	
	成人の週1回以上スポーツに親しむ人の割合	飯田市 38.8%	参考(全国) 40.4%	飯田市 48.2%
		参考(長野県) 45.1%		参考(長野県) 57.1%

「スポーツの実施状況に関する世論調査」「長野県政モニターアンケート」「市民意識調査」

日常的にスポーツを習慣化することで、市民一人ひとりの体力の向上、ストレス解消、生活習慣病の予防など、心身両面にわたる健康の維持、増進が期待できます。また、スポーツを通じて市民が交流することで、地域の一体感や活性化につながります。

第1次計画においては令和1年度48.2%と増加し、目標値である45%を達成し、スポーツが日常生活に定着していることがうかがえます(なお、調査方法や調査内容が異なるため、全国と長野県の値は参考です)。一方で、4割程度の市民はスポーツを年に数回しか行わず、二極化が見られます。目標は達成しましたが、引き続き数値の上昇を目指し、二極化の解消へも働き続ける必要があります。



これらに加えて、本計画の理念に沿って6つの基本目標が着実に実施され、スポーツ文化が多くの市民の間に醸成されることで、一層にスポーツが根付き、推進されると言えることから、スポーツ文

化の醸成は大切な観点です。そのため、広く、スポーツ文化をどの程度意識しているのか、市民の意識を把握することで、今後の施策の全体の展開に活かしていくことができると考えられます。

【方針：スポーツ文化の醸成も加味した指標を令和3年度の市民意識調査において適切に設定し、調査結果も踏まえて目標値を設定】

3 第2次計画に向けた課題

○年代や発達段階に応じた適切なスポーツ環境の整備

子どもの体力・運動能力や成人のスポーツ習慣の定着に一定の成果があるといえますが、つまずいた際に手が出ず顔から倒れる子どもや、歩く際に母指球や土踏ましが上手く使えない子どもが目立ってくるほか、体力測定において巧緻性を表す「ボール投げ」の記録の低下が見られるなどの課題もあり、乳幼児期から高齢者まで、年代や発達段階に応じた適切なスポーツ環境の整備が引き続き求められます。その際に、科学的な根拠に基づく取り組みや指導を積極的に取り入れていく必要があります。

○多様化するスポーツニーズへ対応した適切な指導

スポーツニーズの多様化に伴い、指導者に求められているニーズも、従来の競技力向上の指導力から、子どもをスポーツ好きにさせる指導力、運動能力を高める指導力、地域コミュニティでの指導など多様化しています。その中でも、アスリートを目指す選手については、練習環境や指導環境の整備に併せて切れ目なくスポーツ活動ができる体制づくりも必要となります。

指導者講習会等の実施や資格取得を（公財）飯田市スポーツ協会と共に促進していますが、当地域においてスポーツ指導を中心に生活することは難しいことや、指導の負担増への懸念もあり参加者が伸び悩んでいます。

○公共交通網の整備後のスポーツ振興策の研究不足

今後のリニア中央新幹線や三遠南信自動車道開通を見据え、大都市とのアクセスの利便性を生かした地域振興について、スポーツ振興の立場からの研究が不足しています。陸上2種公認競技場としての陸上競技場のメリットを生かすなど、既存施設の利用増加も図る必要があります。

○スポーツ施設の計画的な維持・改修・新設

社会体育施設や学校開放施設等で日々多くの市民がスポーツを行っていますが、多くの施設が築30年を超えているため、老朽化や機能低下がみられます。

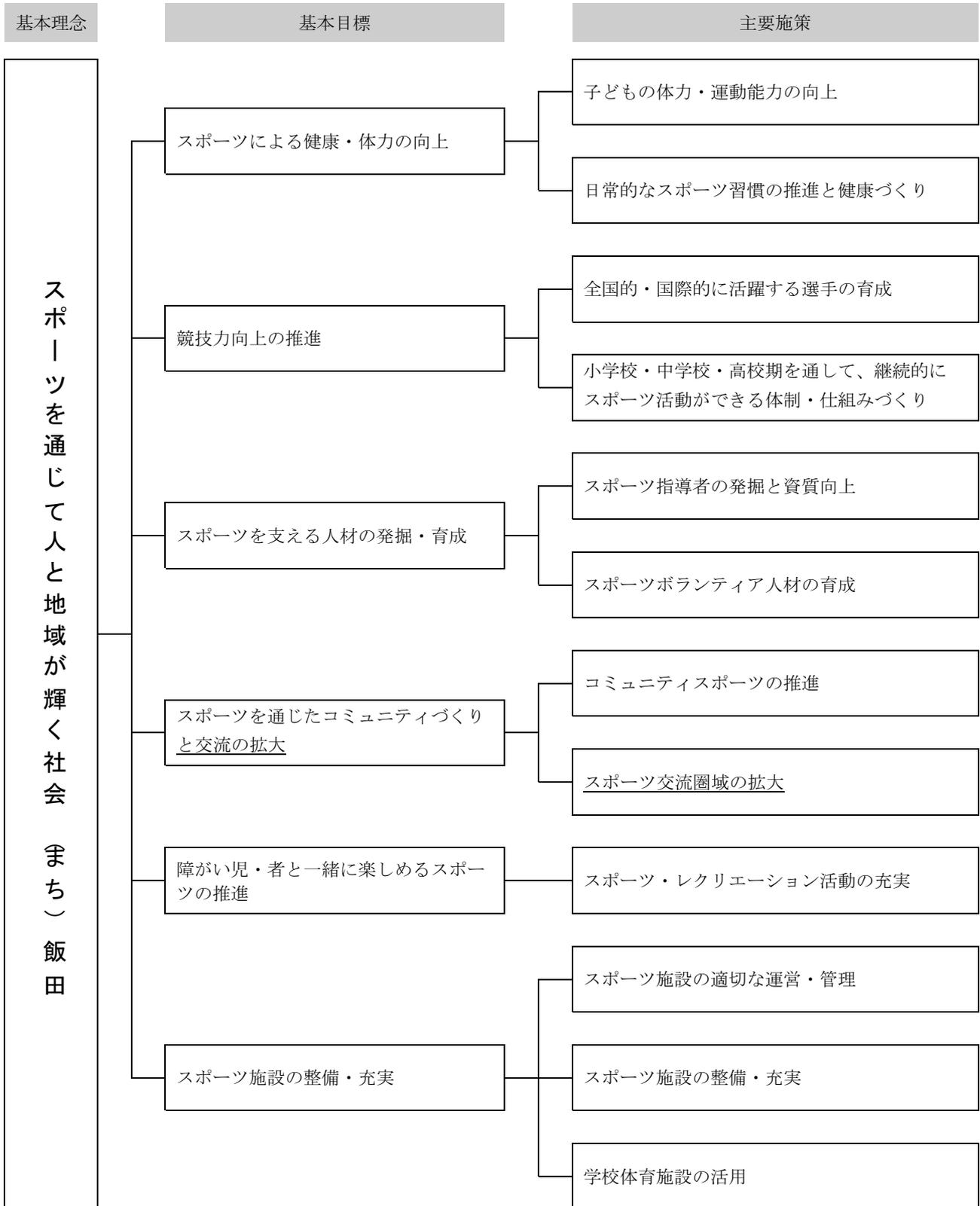
（公財）飯田市スポーツ協会や各競技団体からは、総合（複合）的体育施設の建設や芝生グラウンドの整備などの要望がなされています。県や南信州広域連合における検討も踏まえて、規模、整備方法等について研究を進める必要があります。

4 計画の構成

現状を踏まえ、今までの取組みの方向を継続しつつ、リニア中央新幹線開通を見据えた公共交通網整備後のスポーツ交流への対応を加えた、以下の6つを基本目標に掲げ取り組みます。

【施策の体系図】

※下線は、第2次計画における追加部分



5 重点的に取り組む事項

(ア) 子どもの運動能力を総合的に高めるための支援

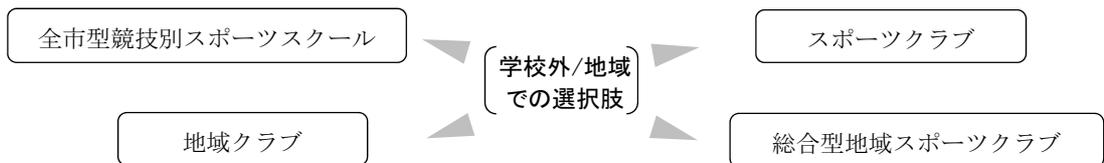
- ・ゴールデンエイジ期の子どもに対する、コーディネーショントレーニングの実施拡大
- ・コーディネーショントレーニング指導者の育成（保育士、幼稚園、学校教職員等）

(イ) 指導者育成と競技力の向上

- ・競技者の将来を見据えた指導ができるよう、資質向上のための指導者研修等の実施
- ・中高生が、競技力向上のために自ら考えて練習を行うための意識付け

(ウ) 中学生期のスポーツ活動の充実

- ・学校外/地域において様々なスポーツ活動ができるための選択肢の充実



(エ) 公共交通網の整備後のスポーツを通じた交流への対応

- ・アクセス圏域の拡大に対応したスポーツ交流の拡大についての研究
- ・スポーツ合宿や大会の誘致などによるスポーツ施設の利用増加

(オ) スポーツ施設の維持・充実

- ・利用者のニーズに沿って、安心安全にスポーツ施設が利用できるよう維持・管理
- ・スポーツ施設周辺環境の整備により、使いやすい施設をめざす
- ・芝生グラウンドなどの高機能スポーツ施設について南信州広域連合等との検討

【年代別のスポーツのねらいと重点的に取り組む事項】

年代等	ねらい等
幼少期	外遊びなど様々な活動により身体の神経系の発達を図る。 ・外遊び ・身体を使うさまざまな動き ・コーディネーショントレーニング
小学生期	コーディネーショントレーニングを始めとした活動により、動きの習得力向上を図る。 ・外遊び ・いろいろなスポーツの体験 ・コーディネーショントレーニング
中学生期	多様な競技スポーツと適正な活動によりバランスの取れた身体発達を図る。 ・多様な競技スポーツ ・適正な指導と適正な活動時間
高校生期	競技スポーツへの本格的取り組みにより競技力・体力・集中力等の向上を図る。 ・競技スポーツ ・適正な指導 ・自立的取り組み
成人	競技力向上に加え、仲間づくりや、生涯スポーツを図る。 ・競技スポーツ ・生涯スポーツ
高齢者	スポーツを通じた健康で豊かな生活づくりを図る。 ・生涯スポーツ ・軽スポーツ
身体障がい児・者	スポーツによる自己実現と、障がいの理解や偏見の解消を図る。 ・軽スポーツ ・競技スポーツ

ア
イ
ウ
エ
オ

第3章 計画の基本目標と施策の展開

＜基本目標1＞ スポーツによる健康・体力の向上

【4年後の目指す姿】

- ・運動好きの子どもが増えるとともに、子どもたちのスポーツに対する多様なニーズに対応できる環境・指導者が整い、子どもたちが楽しくスポーツに親しんでいます。
- ・ウォーキングやニュースポーツが普及し、市民の日常生活に運動習慣が定着しています。

【第2次計画の重点】

スポーツ習慣が市民の間により浸透し、スポーツ人口が増加するには、乳幼児期から高齢期まで年代に沿った取り組みが必要です。特に幼児期の取り組みはゴールデンエイジを経て将来のスポーツ人口の確保につながります。幼稚園・保育園時代に適切な運動を実施するとともに、中学・高校時代に適切なスポーツ活動を行い心身の健康を増進することで、スポーツのまちづくりの基礎を築きます。

1 子どもの体力・運動能力の向上

(1) 子どもが体を動かし、スポーツに触れる機会の充実

現状と課題

- ◆積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が認められることから、運動習慣が身に付いていない子どもに対する支援の充実が必要です。
- ◆国立青少年教育振興機構が実施した「青少年の体験活動等に関する実態調査」の結果から、自然体験が多い子どもの方が体力に自信があるといった自己肯定感が高いことがわかります。体力向上はもとより、体を動かす習慣を付け、生涯に渡りスポーツを楽しむ素地を作る上でも、学校や地域において様々な自然体験学習を充実させることが必要です。その際、自然環境など飯田の恵まれた地域の資源を最大限に活用されることが望ましいと言えます。

施策の展開

- 地域資源である豊かな自然を活かした自然体験活動の促進
 - ・学校や地区公民館等を中心に、飯田市の地域資源である豊かな自然を活かした学校登山や自然体験活動を促進し、子どもの運動能力・体力の向上に繋がります。
- 「歩育」の実践
 - ・歩いて自然や社会に触れ、五感を開き、体で学ぶ直接体験を通じて子どもたちの豊かな心、生きる力を育てる「歩育」を実践し、歩くことの習慣化に向けて、公民館の乳幼児学級等との連携を深めるなど、保育・教育現場や身近な地域・家庭に働きかけていきます。
- 外遊び・日常的に歩くことの推奨
 - ・子どもを対象にした各地区の公民館やまちづくり委員会の活動において、地域の自然環境を活かした遊びや、世代を越えた昔ながらの遊びの伝承など、外遊びの楽しさを伝える活動の充実を図ります。

- ・保健課や保育所等との連携により、外遊びや日常的に歩くことが運動能力・体力向上へ良い影響があることの紹介など、幼児期から運動に親しむための保護者への啓発活動を行っていきます。

○地域人材による子どものスポーツ機会の提供

- ・PTA や公民館委員など、子どもの健全育成に関わる地域人材と連携して、運動習慣のない子どもでも気軽に参加できるようなスポーツ機会を提供していきます。
- ・スポーツ少年団公認指導者などの地域人材を活用し、ジュニア期のスポーツ指導や、体と心の発育発達特性などの年齢に応じた適切な指導を行うことで、スポーツの楽しさを味わい、習慣的にスポーツ活動ができる子どもを育てます。
- ・幼児期の望ましい運動環境の充実に向け、幼児教育者養成機関である飯田女子短期大学との連携を強化します。

○親子でスポーツを楽しむ機会の充実

- ・小中学校の学年・学級単位で開催する「親子レク」の取り組みとして、だれでも気軽に楽しめるニュースポーツを推進し、スポーツを親子で楽しむ機会を増やすことで、子どものスポーツへの興味関心を育てます。

(2) 学校体育等の充実

現状と課題

- ◆「令和1年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の「運動に関する意識」では、学年が進むにつれて、運動が好き、体力に自信があると考える子どもの割合が減っています。児童・生徒が運動の楽しさを知り、苦手意識を持たないような教育指導や運動習慣の定着が必要です。
- ◆同調査で体格と総合評価との関係を見ると、飯田市の肥満・やせ傾向の児童生徒は、小学校及び中学校の男女ともにA・B評価（運動能力が高い）の割合が低く、D・E評価（運動能力が低い）の割合が高くなっています。

		体力・運動能力が高い	体力・運動能力が低い
小学校5年生	729人	267人 36.6%	221人 30.3%
うち、肥満・やせ傾向	84人	16人 19.0%	42人 50.0%
中学2年生	699人	276人 39.5%	171人 24.5%
うち、肥満・やせ傾向	85人	21人 24.7%	37人 43.5%

- ◆コーディネーショントレーニングの効果については、運動能力の向上や集中力・意欲等の改善が、全国各地から報告され、飯田市でも取り組んでいますが、まだ認識が不十分であり、指導者も少ないため一層啓発が求められます。

施策の展開

○コーディネーショントレーニングの実践

- ・神経系の発達が著しい幼児期から学童期の子ども（ゴールデンエイジ）に対し、（公財）飯田市スポーツ協会や指導者組織とともにコーディネーショントレーニングを実践し、運動能力の向上を図りま



コーディネーショントレーニング

す。また、コーディネーショントレーニング実施児童の追跡調査を行い、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」等により効果の有無について検証を行います。

【重点】コーディネーショントレーニング実施 年4園 → 6園以上】

- ・コーディネーショントレーニングの地元指導者のスキルアップを支援するとともに、教員や保育士向け講習会を開催し、教育・保育現場での普及に繋がります。また、指導者資格の取得・維持の促進を行うことで指導者の増員を図ります。

【重点】コーディネーショントレーニング講座 年0回 → 1回以上】

- ・コーディネーショントレーニングの効果については、運動能力だけでなく、「姿勢」「集中力」「意欲・主体性」等についても、各地から向上したとの報告がなされており、これらの有効性について啓発活動を行うことで、普及につなげていきます。

○複合的な運動の体験の推進

- ・幼児期から学童期は、単一のスポーツ種目に偏らず、複合的な運動の体験を推進することで、多様な動作（身のこなし）ができる能力を育てていきます。

○運動・スポーツが楽しいと感じる環境づくり

- ・保健体育授業や、昼休み・休み時間の自由遊び、小中学校毎に工夫した「一校一運動」の取り組みなど、学校生活の多様な場面で体を動かして遊んだり、スポーツをする機会を取り入れ、子ども達の興味や関心を引き出し、楽しいと感じる環境づくりを進めます。
- ・幼児期の運動能力向上に向けて、保育園等と連携し、用具等の研究を行います。

○小中学校時代のスポーツの楽しさ発見と体感

- ・小中連携・一貫教育の取り組みとして、小学校と中学校の職員が共通の目標や願いをもって、児童生徒に「できた」という達成感や、「やればできる」という自己肯定感を高められる授業を展開していきます。

○基本的な生活習慣の定着

- ・公民館・保健課と連携して、食生活や規則正しい生活リズムなど、基本的な生活習慣の定着を図ることで、運動意欲の向上に繋がります。

○スポーツイベントへの積極的な参加

- ・「飯田やまびこマーチ」や「風越登山マラソン大会」など、飯田市のスポーツイベントに学校・学級・PTA単位等で積極的に参加することで、身近なスポーツへの興味関心を育てます。



第33回飯田やまびこマーチ PTA コース

○学校体育との連携

- ・児童・生徒の運動習慣・運動能力に大きな影響がある、小中学校と連携して、子どもの体力・運動能力の向上を図ります。各校における取り組み方向の策定の参考とするため、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析結果や結果の推移等の提供に併せて、コーディネーショントレーニング実施児童・生徒の追跡調査を行い、効果の検証を行います。

(3) 中学生期のスポーツ活動における適切な指導体制の充実

現状と課題

- ◆中学校の運動部活動においては、一部過度な活動による肉体的・精神的な弊害や勝利至上主義の偏重などによる課題が指摘されています。楽しみを伴わない過重なトレーニングなどにより、スポーツ嫌いやバーンアウト（燃え尽き症候群）に陥るケースがあります。
- ◆各中学校の部活動と社会体育活動の活動体制については、中学校ごとに部活動運営委員会を設置し、家庭、学校、地域及び指導者が連携して実施しています。
- ◆こうした背景も踏まえ「飯田市中学校部活動の活動指針」の改定により、完全下校時刻を徹底するとともに、部活動の延長としての社会体育が廃止されました。部活動の延長としての社会体育に代わる中学生のスポーツ選択肢の一つとして、全市型競技別スポーツスクールが発足しました。競技志向だけでなく、スポーツの普及も念頭に、将来のスポーツ文化の醸成も目的としています。

施策の展開

○中学生のスポーツ選択肢の整備

- ・学校部活動、民間スポーツクラブ、地域のスポーツクラブに加え、全市型競技別スポーツスクールを実施し、中学生のスポーツの選択肢を整備します。より多くの中学生が参加することで、将来のスポーツ人口の増加、生涯スポーツの普及、スポーツ文化の醸成を目指します。



全市型競技別スポーツスクール（バレーボール女子）

【重点】全市型競技別スポーツスクールの種目数 13種目 →16種目】

○家庭、学校、社会体育指導者の連携体制づくり

- ・「飯田市中学校部活動の活動指針」も踏まえ、家庭、学校、社会体育指導者が連携を取りながら、子ども一人ひとりのスポーツ活動時間と休養時間とのよりよいバランスが保たれるよう、日常的に適切な管理指導を行っていきます。
- ・学校ごとにコミュニティスクールを推進する中で、学校部活動指導者と社会体育指導者及び地域のスポーツ関係者等が共通理解のもと、連携して指導が充実するように働きかけます。

○指導環境の充実

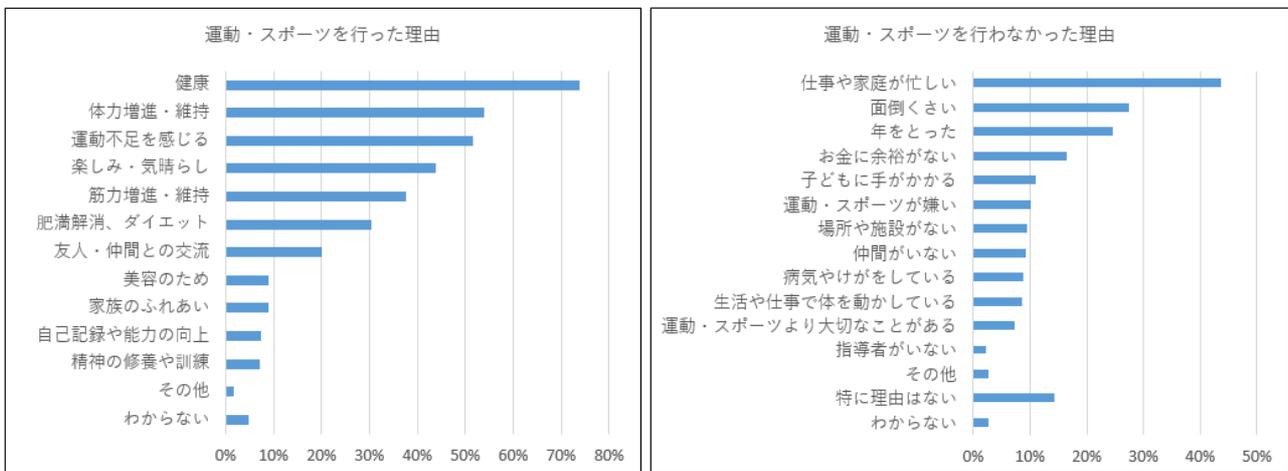
- ・（公財）飯田市スポーツ協会との連携により、指導技術の優れた地元人材を学校に紹介し、学校部活動の指導環境の充実を図ります。
- ・学校部活動指導者や社会体育指導者を対象に、生徒が求める指導に応じ、生徒の人格形成への支援と競技技術を向上とのバランスを常に意識した指導に向けて、指導研修の機会を充実します。
- ・指導者等に対し、競技技術の向上だけでなく、将来に渡ってスポーツに親しむ人材育成に向けての研修等を行います。
- ・学校間の情報共有等により、他校との比較や現状把握を行っていただき、一校一運動等の効果的な実施につなげていきます。

2 日常的なスポーツ習慣の推進と健康づくり

(1) いつでも・どこでも・だれでも気軽に取り組めるスポーツの普及

現状と課題

- ◆飯田市民の 48.2%は週 1 回以上スポーツに親しんでいます（令和 1 年度市民意識調査）。調査内容が異なるので単純な比較はできませんが、全国は 53.6%、長野県は 57.1%となっています。
- ◆スポーツ庁が実施した「スポーツの実施状況等に関する世論調査（令和 1 年度）」では、「運動・スポーツを行った理由」として、「健康・体力づくり」を目的としている人が最も多く、体を動かすことの必要性は多くの人が認識していると言えます。運動種目としては、ウォーキング（散歩などを含む）、ランニング（ジョギング、階段昇降などを含む）の割合が特に高くなっています。一方「運動・スポーツを行わなかった理由」では、「仕事や家事が忙しくて時間がない」という理由が最も多くなっており、いつでも・どこでも・だれでも気軽に取り組めるスポーツの普及を通じて、市民の運動習慣の確立を図る必要があります。



スポーツ庁 令和 1 年度スポーツの実施状況に関する世論調査

- ◆飯田市や近隣の町村の事業所が、地域ぐるみ環境 ISO 研究会※4の呼びかけにより定期的に実施している「ノーマイカー」の取り組みは、二酸化炭素の排出抑制といった環境改善の側面ばかりではなく、徒歩や自転車通勤が運動習慣として定着することによって、健康づくりや体力の向上が期待できます。

※4 地域ぐるみ環境 ISO 研究会：飯田下伊那地域の約 30 事業所で構成され、それぞれの事業所の枠を超えて環境改善活動を自主的・主体的に展開している組織。

施策の展開

○日常的な運動習慣の定着のためのウォーキングの普及（「歩くまちづくり」の推進）

- ・いつでも・どこでも・誰でも気軽に行うことのできるウォーキングについて、その効果や正しい歩き方を学ぶ講座の開催及び歩ききっかけづくりとなるウォーキングイベントの実施を通して、ウォーキングの普及・啓発に重点的に取り組んでいきます。
- ・ランニング、ウォーキングをしやすい路上環境など、日常的に生活の中へスポーツを取り入れやすい環境整備を検討していきます。
- ・地区公民館やウォーキング団体等と連携し、新たなコース設定により参加者の満足度を高めるとともに、新たな参加者獲得につなげていきます。

○手軽に楽しめるニュースポーツの普及活動

- ・手軽に楽しめるニュースポーツについて、公民館や各地区のスポーツ推進委員が主体となって、一層普及に取り組んでいきます。また、新たな種目の選定についても研究を行います。

○運動実践講座・教室の継続的な実施

- ・保健課と各地区の公民館が核となって、中高年を対象とした運動実践講座・教室を継続的に実施していきます。

(2) 気軽に参加できて、スポーツ習慣のきっかけとなるようなイベント等の充実

現状と課題

- ◆スポーツイベントへの参加者について、積極的に継続して参加する人と全く参加しない人の二極化が見受けられます。初心者でも参加しやすく、スポーツ習慣のきっかけとなるようなスポーツイベント等の開催について検討が必要です。
- ◆スポーツ推進委員が主体になって毎年開催しているニュースポーツフェスティバルでは、幅広い年齢層にニュースポーツの普及浸透がなされています。
- ◆新型コロナウイルスの影響により従来の方法ではスポーツイベントの実施が難しい状況になったことから、感染対策を施した実施方法について研究していく必要があります。
- ◆一方で、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通後に想定される参加者の増加への対応の検討も早期から進める必要があります。

施策の展開

○スポーツ習慣のきっかけとなるようなスポーツイベント・教室の充実

- ・いつでも・どこでも・だれでも気軽に取り組めるウォーキングの習慣化に重点を置いた定期教室等を開催し、ウォーキングの成果の確認や、習慣化のコツを学ぶ機会づくりをします。
- ・スポーツ推進委員を中心に、地区ごとに開催されているウォーキング事業に併せてウォーキング講習会を開催し、正しい歩き方や、より効果的な歩き方を知ってもらうことで、習慣的な取り組みに繋がります。また、より多くの市民が参加できるように広報活動を強化します。
- ・スポーツイベント関連事業については、市民の多様化するニーズに応えるとともに、運動・スポーツを行うこと目的（競技力向上、健康・体力づくり、コミュニティづくりなど）に対応して開催できるように、関連部署、組織等との連携体制づくりをします。
- ・ニュースポーツフェスティバルの開催内容について更に検討を重ね、初心者でも気軽に参加できるイベントにしていきます。また、将来は市民が主体となって大会開催ができるような仕組みづくりを目指します。
- ・新型コロナウイルスの感染リスクを低下させつつ、いかにスポーツイベントを実施させていくかについて研究していきます。

(3) 高齢者スポーツの支援

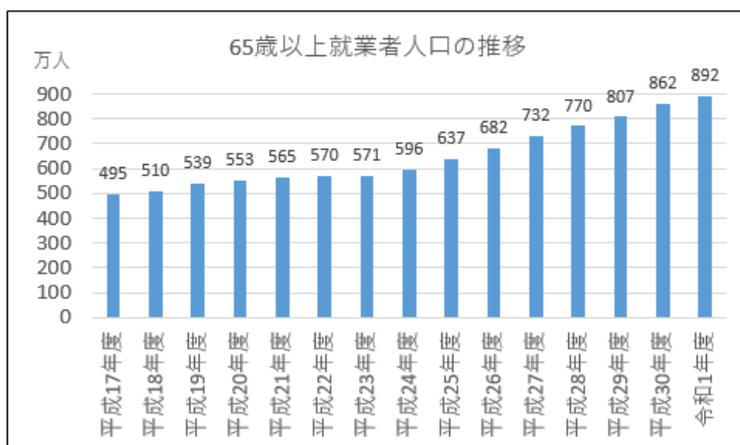
現状と課題

- ◆総務省統計局の「労働力調査」の結果から、65歳以上の就業者人口が増え続けていることがわかります。現役世代と同様に、高齢者も仕事・家事で忙しい人が増えていることから、手軽に楽しめるスポーツの普及が課題と言えます。

◆介護認定者の原因疾患においては、年齢が高いほどロコモティブシンドロームに関連していると考えられる要因が多い傾向にあり、高齢期においても日常的な身体活動が大切といえます。

◆手軽に楽しめるニュースポーツについて、高齢者対象の講習依頼や用具の貸し出しなどの需要が増えてきています。

◆高齢期においても身近な暮らしに運動・スポーツがあることは、心にも潤いをもたらします。



施策の展開

○高齢者がいきいきと健康に過ごせるための運動・スポーツ機会の拡充

- ・(公財)飯田市スポーツ協会・スポーツ推進委員・公民館と連携し、高齢者がいきいき・活動的な生活を送り、健康や体力を増進させる運動・スポーツ機会の拡充をしていきます。
- ・各地区の公民館と連携し、日常生活の中で、体力に応じて取り組みやすいウォーキングの普及に向けて、きっかけとなるイベントや講座・教室を開催していきます。
- ・高齢者の需要が増えているニュースポーツについて、各地区のスポーツ推進委員を中心に体験会や講習会を開催し、高齢者が取り組みやすいニュースポーツやその楽しさを紹介します。
- ・講座や教室等を通じた組織化により、高齢者スポーツの継続実施・コミュニティの醸成を図ります。

(4) スポーツと健康づくり

現状と課題

- ◆市民意識調査の結果から、特に働き盛りの年代(20歳～49歳)が、生活習慣病の予防のために心がけるべき身体活動が不足していると言えます。
- ◆前述のとおり文部科学省の「スポーツの実施状況等に関する世論調査」では、健康・体力づくりのために運動・スポーツを行うことの効果や必要性の認識はあるものの、時間が取れないという現状があることがわかります。
- ◆近年、夏季のスポーツ実施中における熱中症リスクが高まっています。健康でスポーツを続けるために、熱中症対策知識をスポーツ実施者一人ひとりが自覚していただく必要があります。

施策の展開

○飯田市地域健康ケア計画との連携

- ・飯田市地域健康ケア計画の重点プロジェクトの一つである「歩こう 動こう プラステン(+10分)」について保健課、公民館、医療機関、関係する市民団体等と連携して取り組んでいきます。

歩こう 動こう プラステン (+10分)

- 『プラステン (+10分)』とは
“ 今より1日10分多く、からだを動かしましょう ”
というメッセージです。

10分の活動は約1,000歩
700~800mの歩行に
相当します。

- 運動することが難しい方は
普段の生活の中でからだをこまめに動かし、身体活動量を増やす心がけを。
今より少しだけ **多く**、少しだけ **長く**、少しだけ **元気に** 動かしてみましよう。
- プラステン (+10分) の効果は意外と大きい
 - ・1年続ければ、体重を2kg減らすカロリーに相当します。
 - ・死亡や病気の発症などの危険性が低くなります。(アクティブガイド活用ブックより)

死亡の危険性	2.8% 減
生活習慣病等発症	3.6% 減
がん発症	3.2% 減
ロコモティブシンドロームや認知症の発症	8.8% 減

○熱中症対策方法の浸透

- ・各体育施設の入り口等に熱中症予防ポスター等を掲示し、注意を促します。
- ・体育施設利用申し込み時にチラシや口頭により注意喚起を行い、熱中症対策の実施を促します。

＜基本目標 2＞ 競技力向上の推進

【4年後の目指す姿】

- ・全国大会やオリンピック・パラリンピックなどの国際舞台で活躍する地元出身選手が増加しています。

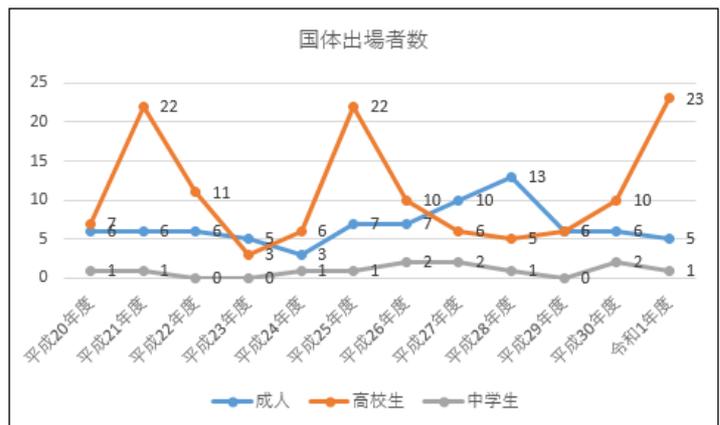
【第2次計画の重点】

各競技種目における講習会・強化練習・大会を実施してきていますが、市の人口減少・少子化に伴い、スポーツ人口の減少も避けられない状況です。競技スポーツ人口の拡大、競技志向の高まりによるニーズに対応していく環境が必要です。「見るスポーツ」「するスポーツ」としてトップアスリートの指導やプレーに触れる機会や指導、「やりたい、やってみたい」スポーツができる環境を整備していきます。併せて、指導を受けるだけでなく、競技者自らが主体となって競技に取り組むこと（ボトムアップ）による競技力の向上を図ります。

1 全国的・国際的に活躍する選手の育成

現状と課題

- ◆飯田市民の国民体育大会など全国大会への出場者数や出場種目数は、4年前よりもやや増加傾向にはありますが、ほぼ横ばいです。
- ◆より高度な競技環境・指導者を求めて、市外の高校等への進学を選択する学生が増えています。
- ◆トップアスリートのプレーを間近で見るとは、スポーツへの関心と子どもの競技力の向上につながります。子どもから大人まで（家族世帯）がスポーツに興味・関心をもてる環境の充実が必要です。



施策の展開

○全国的・国際的に活躍できる選手の育成

- ・(公財) 飯田市スポーツ協会と連携し、各競技種目における高度な技術講習の機会の提供や、強化練習等の支援を行っていきます。

【指導者研修等の実施 年1回(維持)】

- ・地元出身選手の活躍は、市民に対し元気と活力を与え、一体感づくりに寄与することから、その活躍を広く市民に周知します。
- ・(公財) 飯田市スポーツ協会や民間スポーツクラブと連携し、地域でトップアスリートを育てることができる体制を目指します。また、一旦地域から離れて活躍した選手が、将来的に地域に戻って競技活動を継続したり、優れた指導者となって地域の競技レベルアップに貢献してもらえるような人材の受け皿について検討していきます。

- ・情報通信技術を利用した新たなスポーツの展開（リモートスポーツなど）の推進について、理解と関心を高めます。

【スポーツのリモート実施等の情報交換 年0回 → 1回以上】

- ・ボトムアップ理論等により中高生競技者が自ら考えて練習を行うような意識付けを図り、競技者の主体的な活動による競技力の向上を図ります。

【重点】中高生向け研修会等の実施 年0回 → 1回以上】

○一流のプレーに触れる機会の充実

- ・市民、とりわけ子どもが「観るスポーツ」を楽しみ、より質の高いプレーに触れることができるようトップスポーツの試合の誘致に取り組みます。
- ・親子参加型のスポーツ教室やボールゲームフェスタの開催など、トップアスリートとの交流の機会の拡大に取り組んでいきます。

2 小学校・中学校・高校期を通して継続的にスポーツ活動ができる体制・仕組みづくり

現状と課題

- ◆運動部活動では、学校によっては生徒がそれまで取り組んでいた競技種目がないなど、継続的に競技に取り組むことができない状況もあります。

施策の展開

○小学校・中学校・高校期を通して継続的にスポーツ活動ができる体制・仕組みづくり

- ・少子化による部員数の減少に対応し、小学校・中学校・高校期を通して継続的にスポーツ活動ができる環境を整備するため、中学校ごとの部活動運営委員会におけるあり方の検討や、民間スポーツクラブ等との連携を図っていきます。
- ・複数校による合同部活動や合同チームによる大会出場などの仕組みについて、中体連（中学校体育連盟）等の動向を注視し、競技団体等と情報の共有を図ります。
- ・令和2年9月から飯田市教育委員会と（公財）飯田市スポーツ協会が開催する、中学生を対象とした全市型競技別スポーツスクールが競技への間口を広げる契機となるよう、民間スポーツクラブ等との連携を強化します。



全市型競技別スポーツスクール（スノーボード）

＜基本目標 3＞ スポーツを支える人材の発掘・育成

【4年後の目指す姿】

- ・各競技スポーツの指導者が、指導者同士の横の連携を密にし、切磋琢磨する組織体制ができています。
- ・市民の多様なスポーツニーズに対応できる指導者体制が整っています。
- ・スポーツボランティア活動など、スポーツを「支える」文化が育っています。

【第2次計画の重点】

（公財）飯田市スポーツ協会を中心に、指導者の技術・資質向上や指導人材に関する事業展開がされており、指導者育成に寄与していますが、種目を問わず指導者不足は課題として挙げられるとともに、中高生を始めとしたスポーツボランティア活動についても人数が減少傾向にあります。今後の市民スポーツを維持していくための体制の充実や土壌づくりに取り組みます。

1 スポーツ指導者の発掘と資質向上

現状と課題

- ◆スポーツ指導者には、より高度な競技レベル・指導技術が求められています。
- ◆望まれる指導者像としては、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」を挙げている人の割合が高くなっています（「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より）。
- ◆スポーツ障害の予防や応急手当に必要なスポーツ医・科学の知識に基づいた指導やサポート体制が十分ではありません。
- ◆ウォーキングや体操など、時間を気にせず取り組める運動へのニーズが高まっており、そのニーズに沿った指導者が必要とされています。
- ◆競技種目や地域によっては中学校部活動の地域指導者（外部指導者）が不足している状況があります。
- ◆地域で育ったトップレベルの選手が、指導者としてその技術や経験等を地域に還元する仕組みが確立されていません。
- ◆（公財）飯田市スポーツ協会では指導者人材バンクを立ち上げましたが、利用実績が十分ではなく、活用拡大を図る必要があります。

施策の展開

○指導者の指導技術・資質の向上

- ・（公財）飯田市スポーツ協会と連携し、指導者の知識・指導技術の向上を図るための指導者講習会の充実と、公認スポーツ指導者の資格取得を促し、幅広いニーズに対応できるよう指導者の資質向上を図ります。

【指導者研修等の実施 年1回(維持)】

- ・スポーツ少年団の活性化と、子どもたちにより安全で効果的な指導を行うために、各単位団における「認定員」の資格取得者の拡充に向けた働きかけをしていきます。

- ・青少年スポーツの指導者を対象に、「飯田市社会体育活動における青少年スポーツ指導の指針」に基づいて、発達段階における指導ポイントを踏まえた適切な指導についての啓発活動を行います。
- ・(公財) 飯田市スポーツ協会が主体となって、チームや競技種目、カテゴリなどを越えた指導者同士の交流、情報交換の機会を設けることで、相乗的な指導技術の向上を図ります。
- ・医師・理学療法士などスポーツに関連する専門家との情報交換や、サポート体制へ参画してもらうことで、総合的なスポーツ指導技術の向上を目指します。
- ・スポーツ推進委員の指導技術の向上を図り、市民ニーズの高いウォーキングやニュースポーツの指導体制を充実させます。

○地域指導人材の情報提供の充実

- ・(公財) 飯田市スポーツ協会による指導者人材バンクの充実を図り、質の高い指導者を紹介できる体制を整えます。

○指導人材を創出する仕組みの確立

- ・地域で育ち、一旦地域から離れて活躍した選手が、将来的に地域の優れた指導者となって、自身の技術や経験を還元していけるような仕組みの確立について検討していきます。

2 スポーツボランティア人材の育成

現状と課題

- ◆「飯田やまびこマーチ」や「風越登山マラソン大会」などの飯田市のスポーツイベントは、市民ボランティアのおもてなしによって支えられており、飯田市のスポーツイベントの魅力の一つとなっています。
- ◆運動が苦手であっても、スポーツを支える・関わることの大切さ・楽しさを体験することも、スポーツ土壌づくりにつながります。

施策の展開

○スポーツを「支える」土壌づくり

- ・中学生や高校生にスポーツイベントの運営等に積極的に関わってもらうことで、スポーツを「支える」土壌づくりを進めます。また、地域のスポーツイベントに関係する団体等と連携を深め、スポーツを「支える」喜びをより一層地域に浸透させることで、地域の活性化に繋がります。

【スポーツイベントの実施 年2回以上(維持)】



飯田やまびこマーチ チェックポイント

＜基本目標４＞ スポーツを通じたコミュニティづくりと交流の拡大

【４年後の目指す姿】

- ・コミュニティスポーツが市民に浸透し、一体感・活力のある飯田市が実現しています。
- ・リニア中央新幹線開通も見据えた新たなスポーツ交流が生じ、飯田におけるスポーツ合宿や大会の数が増加しています。

【第２次計画の重点】

スポーツを共に行うことで、互いに補い、協力し合い、一体感が醸成されていきます。スポーツを通じたコミュニティづくりについては、さらに対象者が広がるよう子どもや高齢者までを対象とした新規事業の提案や既存事業の見直しを進めていきます。

また、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通を見据え、スポーツを通じた交流の拡大に向けた研究・検討を進めます。

１ コミュニティスポーツの推進

現状と課題

- ◆近年、少子高齢化や情報化の進展、地域社会の空洞化や人間関係の希薄化など、社会環境や価値観が急激に変化しています。これらの課題に対応していく上で、地域住民が一緒に運動する機会を持つことは、コミュニティを活性化する上で有効な手段といえます。
- ◆いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも運動できるスポーツの普及と、スポーツを通じた地域づくり・地域交流が求められています。
- ◆コミュニティスポーツについては、スポーツ推進委員会を中心に各地区で推進されてきましたが、各地区のスポーツ事業への参加はメンバーや対象年齢が固定化される傾向にあります。

施策の展開

○地域コミュニティ活性化のためのスポーツ活用

- ・スポーツ推進委員と公民館が核となって、地域住民の交流と一体感・活力の醸成のため、コミュニティスポーツの推進やサークル育成等の支援、文化活動との連携を図ります。
- ・全市的なスポーツイベントや、各地域でのイベント等の地域活動において、学校や地域住民、地元企業との連携強化を積極的に行い、スポーツを活用した地域振興に取り組みます。
- ・ニュースポーツフェスティバルなどスポーツ事業を充実させ、スポーツを通じてより多くの市民が交流できるような機会を増やします。

【ニュースポーツ講習会等の実施 年１回以上(維持)】



ニュースポーツフェスティバル
(キャッチング・ザ・スティック)

2 スポーツ交流圏域の拡大

現状と課題

- ◆三遠南信自動車道の全線開通が近づいてくる中で、地理的、歴史的に関係の深い三遠南信地域との住民連携を今後さらに進めていく必要があり、スポーツという観点からも交流を活性化していく必要があります。
- ◆高速交通網の開通により首都圏、中京圏、三遠南信圏がアクセス圏域となることを視野に入れ、スポーツ合宿等による、スポーツ交流人口の拡大、地域の活性化が望まれています。

施策の展開

○スポーツを通じた広域交流の拡大

- ・「飯田市中央道沿線都市親善スポーツ大会」にて、中央道沿線地域だけではなく、広く三遠南信地域の参加を促す事で、交流を深めていきます。
- ・リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通を見越して、スポーツを通じた広域交流の在り方について、ラフティングなど伊那谷の自然を活用したアウトドアアクティビティも含め研究を行います。

【重点】アクセス圏域の拡大に対応したスポーツ交流の研究】

○スポーツ合宿等の誘致

- ・陸上2種公認競技場である飯田市総合運動場陸上競技場、長野県営飯田野球場（綿半飯田野球場）、県営飯田弓道場、県体育館、上郷体育館など、ある程度機能の整ったスポーツ施設を利用したスポーツ合宿等を誘致し、スポーツ交流人口の増加と、施設の有効利用を図ります。

【重点】スポーツ合宿や大会の誘致活動 年0回 → 年2回以上】

- ・現有施設の機能改善や、高機能スポーツ施設の整備によるスポーツ施設の集積について研究・検討します。

<基本目標5> 障がい児・者と一緒に楽しめるスポーツの推進

【4年後の目指す姿】

- ・障がい児・者がスポーツイベント等により多く参加し、一緒に楽しむ土壌が整っています。

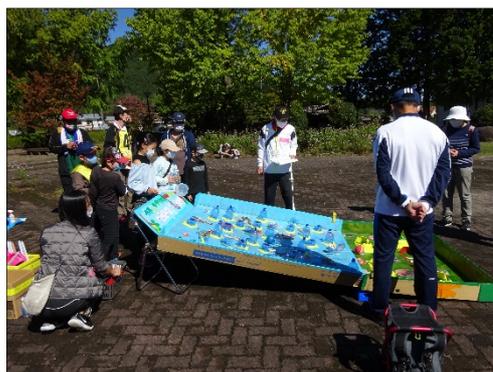
【第2次計画の重点】

誰もがスポーツを楽しむ権利（スポーツ権）を有していますが、障がいを持っている方が実際にスポーツを行うにはハードルがあります。障がいの有無に関わらず楽しめるスポーツの普及とともに、障がい児・者と共にスポーツを楽しむ機会の創出に努めます。

1 障がい児・者スポーツ・レクリエーション活動の充実

現状と課題

- ◆当市の障がい者手帳（身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳）所持者は、令和1年度末で6,704人となっており、飯田市全体の人口に対して7%程度となっています。
- ◆平成29年度に内閣府が行った障がい者に関するアンケートでは、約84%が障がいを理由にしたなんらかの差別や偏見があるのではと回答しています。これは、未だに学校や職場、地域など日常の社会生活において、障がい児・者とそうでない人とが区別される状況があることを示しています。障がいへの理解を深め、偏見や社会的障壁を解消していくきっかけとして、障がい児・者と一緒に楽しむスポーツやレクリエーション活動が求められています。
- ◆障がいがあってもいきいきと健康的に暮らしていける環境や、スポーツにより自己実現できる機会の充実が必要です。



ふれあいウォーキング
(長野県障害者スポーツ支援センター)

施策の展開

○障がい児・者スポーツ・レクリエーション活動の充実

- ・障がい児・者のスポーツ参加機会を増やすため、市の主催行事やスポーツ関連の情報を積極的に提供するなど、関係部局などとの情報交換を密接に行います。
- ・障がい児・者スポーツ選手・チームと一緒に試合や交流を行うための情報提供やサポートを充実させます。

【障がい児・者スポーツクラブへの協力 年5回以上(維持)】

- ・やまびこマーチのコース設定など、障がい児・者と一緒に楽しめるイベント企画、サポート体制を充実させます。
- ・医療機関や施設等との連携を図ります。

<基本目標6> スポーツ施設の整備・充実

【4年後の目指す姿】

- ・誰もが安全・快適に利用できるスポーツ施設の整備やサービスの向上により、利用者が増加しています。

1 スポーツ施設の適切な運営・管理

現状と課題

- ◆スポーツ施設、用具類の適切かつ安全な使用方法の啓発により、予見できる危険の回避に努めるとともに、万一の事故の際には適切に対応することが施設管理者や指導者等に求められています。
- ◆スポーツ施設の利用にニュースポーツ、フットサル、ストリートスポーツが加わるなど、市民のスポーツニーズが多様化してきています。

施策の展開

○スポーツ施設の利用時における安全の確保

- ・施設点検マニュアル・危機管理事案ガイドラインに基づき日常点検を行い、予見可能危機の回避に努めるとともに、非常災害時を想定した訓練を実施し、緊急対応能力の向上を図ります。
- ・利用者に対しスポーツ施設や用具の使用方法や熱中症対策等、施設の安全な利用についての啓発を行います。

○効率的かつ効果的な施設管理

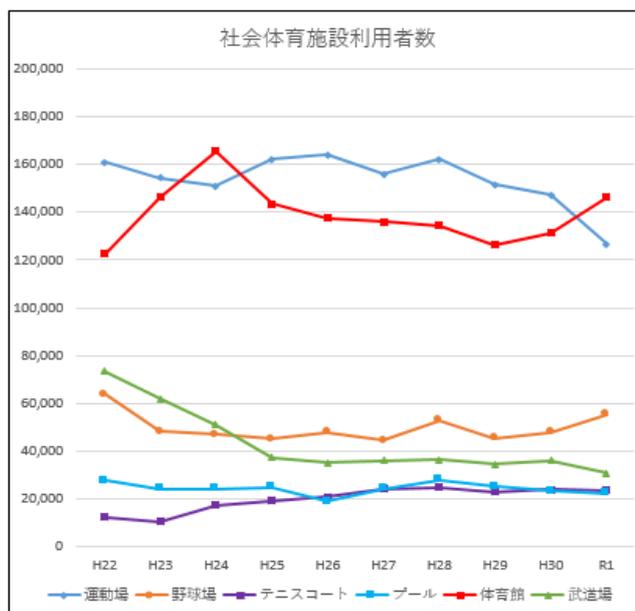
- ・各スポーツ施設の設置目的や利用状況等により、指定管理・地元管理・直営管理する施設に区分し、より効果的・効率的で利用しやすい管理運営を進めていきます。
- ・市民のニーズに沿った施設運用として、オンラインで予約確認から使用料決済まで完結できるシステムやアプリケーションへの移行を研究します。

【**重点**利用者ニーズ調査 年1回以上(維持)】

2 スポーツ施設の整備・充実

現状と課題

- ◆飯田市が管理するスポーツ施設は社会体育施設（46施設）と学校開放体育施設（56施設）の合計102施設で、年間延べ約100万人が利用しています。
- ◆緊急性・安全性を優先して、耐震改修をはじめ、必要となる改修工事を実施してきました。
- ◆（公財）飯田市スポーツ協会加盟の22競技団体は、社会体育施設を中心に練習や各種大会で利用しており、競技レベルの向上に励んでいます。



- ◆社会教育団体として多くのスポーツ団体が登録され、地域住民の生涯スポーツ活動の場として、学校体育施設を中心に施設が日常的に利用されています。
- ◆スポーツ施設のバリアフリー化により、だれでも利用しやすい環境の整備が求められています。
- ◆スポーツ施設の約6割が設置後30年以上を経過しており、改修・修繕を必要とするものが多くなっています。

施策の展開

○スポーツ施設の整備・改修

- ・夜間照明の設置、照明のLED化、トイレの洋式化など計画的な改修工事を実施することにより、スポーツ施設の長寿命化を推進します。併せて冷暖房対応やグラウンドの芝生化について検討を進めます。
- ・施設の利用状況を考慮し、統廃合や複合化を含めた今後の施設のあり方については、飯田市公共施設マネジメント基本方針に則って検討を進めます。
- ・利用者のニーズに配慮しながら、バリアフリー化を進め、身近で利用しやすいスポーツ施設となるよう、施設の充実に努めます。
- ・日々の点検・修繕、危機管理事案対応訓練を定期的に行います。
- ・大規模大会が開催できるよう施設の改修方法について検討します。

○広域的なスポーツ施設の整備について

- ・プロスポーツや広域的な規模の試合・大会に対応できるよう、高機能スポーツ施設について南信州広域連合と連携して検討していきます。

【重点】高機能スポーツ施設やグラウンドの芝生化について研究を行う】

3 学校体育施設の活用

現状と課題

- ◆学校体育施設については、小学校が19校中18校、中学校が9校中8校において校庭26施設、体育館26施設、武道場4施設の計56施設を社会体育に開放しており、コミュニティスポーツが活発に行われています。
- ◆学校体育施設についても、老朽化等により改修・修繕を必要とするものが多くなっています。

施策の展開

○学校体育施設の有効活用

- ・各地区で地元の学校体育施設の活用や自主的な管理について話し合う場をつくり、一層の有効活用が図られるように開放促進に努めます。
- ・トイレの洋式化や体育館等の照明のLED化、グラウンドの水はけ改良などにより、快適なスポーツ環境の維持に努めます。

第4章 施策の推進体制

1 施策推進体制と役割

(1) 行政・団体

○ 飯田市・飯田市教育委員会

計画の基本理念「スポーツを通じて人と地域が輝く社会（まち）飯田」を実現するため、地域資源を活かしたスポーツ施策を展開するとともに、市民、地域、学校、（公財）飯田市スポーツ協会をはじめとする関係スポーツ団体、スポーツ推進委員協議会などと協働して各施策を進めていきます。

○ （公財）飯田市スポーツ協会

子どもから大人まですべての市民がスポーツを「する」だけではなく、「見る」、「支える」ことを含めたスポーツの楽しみ・感動を分かち合い、支え合う元気なまちづくりをめざして活動をしています。また、スポーツ大会やスポーツ教室の開催を通じて、競技力の向上を目指すとともに、指導者人材バンクによる質の高いスポーツ指導者の紹介活動により、地域のスポーツ環境の充実を図ります。

○ 飯田市スポーツ推進委員協議会

ウォーキングやニュースポーツなど、健康づくりや地域コミュニティづくりを目的とした手軽に取り組めるスポーツを、市全域、また各地区単位で推進します。また、市と各地区住民のパイプ役となって地区住民の声を市のスポーツ施策に反映させます。

○ 学校（小・中・高）

生涯スポーツの土台となる運動能力や体力を育むための運動機会の充実を図ります。また、地域や保護者の協力を得て、スポーツに楽しく意欲的に取り組み、習慣化していけるように、魅力的な運動や遊びを学校生活に取り入れていきます。

○ 保育所等

歩いて子どもたちの豊かな心、生きる力を育てる「歩育」や、コーディネーショントレーニングを実践し、子どもの体力・運動能力の向上を図ります。また、「やまほいく」など幼児期に外遊びの楽しさを伝えることで、運動好きの子どもを増やします。

○ 公民館・育成会等

スポーツに参加する、スポーツ行事を企画・運営するなど、身近な地域活動において、スポーツを通じた住民交流や一体感を創出していきます。また、地域の文化活動とスポーツ活動の融合など、各地区の特色を活かした活動が期待されています。

○ 地域の少年少女スポーツクラブ

各地域に組織されている野球や武道などの少年少女スポーツクラブは、地域に深く根ざした定期的なスポーツ活動を行っています。クラブの活動として地域行事に取り組む地区もあり、地域の大人と子どもで作り上げる有効なスポーツ・地域活動の場となっています。

○ 飯田市スポーツ少年団

青少年の健全な育成を目的として、スポーツ活動のほか、交流活動、学習活動、社会活動などを行っています。青少年の自主性・協調性・責任感・連帯感を育成するとともに、スポーツ活動の楽しさを味わい習慣化することで、生涯スポーツの入口としての役割を担っています。

○ 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブの特長を活かした、多世代、多種目、多様な運動レベルのスポーツ愛好者の交流・コミュニティの創造や、学校部活動に無い種目の受け皿として期待されています。

○ 長野県障がい者スポーツ指導者協議会

障がい児・者と一緒にスポーツを楽しむための技術指導やサポートを行っています。また、障がい児・者スポーツ選手・団体と一緒に試合や交流を行うための窓口としての役割を担っています。

(2) 市民・関係機関

○ 市民

健康づくりのための身体活動の一つとしての継続的なスポーツ活動や、地域住民の交流を目的としたスポーツ行事などへの積極的な取り組みが期待されています。また、市民に元気と勇気を与えてくれる全国的・国際的に活躍するアスリートの増加が期待されています。

○ 医療機関

専門分野での競技者の支援や、健康・体力づくり及びスポーツ障害に関係する専門知識を市民に広く知ってもらうための機会づくりへの協力・支援が期待されます。

○ 企業・社会奉仕団体等

職場におけるスポーツ活動の奨励・支援と、地域における多様なスポーツ活動への人材や財源などの支援が期待されます。

○ 民間スポーツクラブ

スイミングクラブやフィットネスクラブなど、民間スポーツクラブの利用が進んでいます。今後も、関係スポーツ団体との情報交換を促進し、それぞれの機能を分担しながら連携していくことが望まれます。

2 計画の検証・評価

飯田市スポーツ推進計画は、必要に応じ達成目標、主要施策及び事務事業を点検・評価し、改善・見直しを行います。

<資料編>

1 飯田市で管理する体育施設一覧

種別	施設名	建設年月	規模		備考
			競技面積㎡	フロア・競技種目	
体育館	飯田市鼎体育館	S53.10	3,336	バレー 3面 バドミントン 6面 バスケットボール 2面 柔道(3F) 1面・卓球(3F)	H23耐震改修
	飯田市切石体育館	H3.3	615.06	バレー 1面 バドミントン 2面 バスケットボール 1面	
	飯田市上郷体育館	S52.3	2,226	バレー 2面 バドミントン 6面 バスケットボール 2面 卓球(2F)	H23耐震改修
	飯田市山田体育館	S59.4	1,198	バレー 2面 バドミントン 3面 バスケットボール 1面 ソフトテニス 1面	
	飯田市南信濃B&G 海洋センター	S62.5	1,181	バレーボール 2面 バドミントン 4面 バスケットボール 1面 柔道(2F) 卓球(2F) 剣道	
	飯田勤労者体育 センター第1体育館	S52.3	1,008	バレー 2面 バドミントン 6面 バスケットボール 2面 ソフトテニス 1面	
	飯田勤労者体育 センター第2体育館	S60.2	514	バレー 1面 バドミントン 2面	
	長野県勤労者福祉 センター体育館	H8.12	752	バレー 2面 バスケットボール 1面 バドミントン 3面 卓球	
野球場	飯田市今宮野球場	S27.4	18,477	野球 1面 ソフトボール 2面 スタンド3,500人 両翼90m センター120m	
	県営飯田野球場 (綿半飯田野球場)	H1.4	23,398	野球 1面 メインスタンド 3,084人 芝生スタンド 両翼95m センター120m	

種別	施設名	建設年月	規模		備考
			競技面積㎡	フロア・競技種目	
運動場	飯田市座光寺河川敷運動場	H6.9	9,828 106	サッカー 1面 多目的広場 0.5面	
	飯田市総合運動場第1グラウンド	S52.4	20,127	陸上(第2種公認)400m 8レーン サッカー 1面 ラグビー 1面	R1大規模改修
	飯田市総合運動場第2グラウンド	S52.4	5,100	サッカー 1面 ラグビー 1面	
	飯田市下久堅運動場	H3.4	18,777	野球 2面 ソフトボール 2面 サッカー 1面	
	飯田市上久堅運動場(上久堅農村広場)	S62.4	9,000	野球 2面 ソフトボール 2面 サッカー 1面	
	飯田市千代運動場(千代山村広場)	S62.4	10,000	野球 2面 ソフトボール 2面	
	飯田市桐林運動場	H1.4	13,235	野球 2面 ソフトボール 2面	
	飯田市桐林屋根付多目的グラウンド	H15.3	1,152	テニス(クレー) 2面 ゲートボール 2面	
	飯田市川路多目的広場	H23.11	23,421.3 18,061.2	サッカー 大人 1面 サッカー 子人 4面 多目的広場	
	飯田市山本運動場	S60.4	12,284	野球 2面 ソフトボール 2面	
	飯田市矢高運動場	S56.11	7,800	野球 2面 ソフトボール 2面 サッカー 1面	
	飯田市上郷運動場	S51.3	6,876	ソフトボール 1面	
	飯田市山田運動場	S57.10	9,869	野球 2面 ソフトボール 2面	
	飯田市南信濃運動場	S62.10	10,000	野球 1面 ソフトボール 2面	
	県営多目的グラウンド	H2.5	16,121	野球 2面 ソフトボール 4面 サッカー 1面	
	県民飯田運動広場(押洞)運動場	S47.3	15,322	野球 2面 ソフトボール 4面	

種別	施設名	建設年月	規模		備考
			競技面積㎡	フロア・競技種目	
テニスコート	飯田市高羽町 テニスコート	S56.4	1,640	テニス(クレー) 2面	
	飯田市矢高 テニスコート	S54.4	3,700	テニス(クレー) 4面	
	飯田市桐林 テニスコート	H2.4	1,600	テニス(クレー) 2面 (緑色スクリーニングス)	
	飯田市山田 テニスコート	S57.10	2,730	テニス(ハード) 3面	
	飯田市天龍峡 テニスコート	H24.4	3,750	テニス(砂入人工芝) 6面	
	飯田市南信濃 テニスコート	S62.12	924	テニス(ハード) 1面	
	県民飯田運動広場 (押洞)テニスコート	S47.5	6,874	テニス(クレー) 10面	
武道場	飯田市武道館	S57.4	2,184	柔道(1F) 3面 剣道(2F) 3面	
	飯田市営弓道場	S55.3	1,562	6人立	
	飯田市鼎弓道場	S57.12	110	6人立 アーチェリー(3人立) 30m	
	飯田市上郷柔剣道場	S60.3	403	柔道 2面	
	飯田市竜丘柔道場	S62.3	299	柔道 1面	
	県営飯田弓道場	H4.4	1,908	近 的 10人立 遠 的 6人立 アーチェリー 50m	
	飯田市和田弓道場	S58.		4人立	
	飯田市木沢弓道場	S62.3		4人立	
プール	飯田市営市民プール	S35.6	350	25m遊泳、水深0.8m~1.0m 25m徒歩用 水深0.35m~0.55m	
	飯田運動公園プール (アクアパークIIDA)	H7.7	15,000	50m公認 8コース、25m変形、 流水213m、スライダー2基、 ファミリー、りんごプール他	
	飯田市南信濃 B&G 海 洋センター(プール)	S62.5	385	25mプール 6コース 小プール 10m×6m	
その他	飯田市風越山麓 研修センター	S59.4	516	研修施設 宿泊60名	
	飯田市八重河内屋内 ゲートボール場	S60.	830	ゲートボール 2面	

2 飯田市スポーツ推進審議会

飯田市スポーツ推進計画の改定にあたっては、飯田市スポーツ推進審議会において様々な立場の委員から意見をいただきました。委員からは、子どもたちのスポーツのあり方や地域づくりのためのスポーツなど長期間かけて取り組んでいくスポーツ施策についての意見が多くありました。

(1) 飯田市スポーツ推進審議会における検討経過

開催日	策定経過
令和2年7月17日	計画改定スケジュール計画のふりかえり、計画見直しの論点について協議
令和2年12月17日	飯田市スポーツ推進計画改定（案）について協議

(2) 飯田市スポーツ推進審議会での主な意見

区分	主な意見
スポーツによる健康・体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○学校では体力テストで判明した課題を職員間で話し合い、改善策を立てている。小中学校間で連携をとっていくことも必要。 ○スポーツによる健康づくり・体力づくりの効果はすぐに出るものではない。一世代（25年）単位で考えていきたい。 ○スポーツを続けていくことで、スポーツが生活の一部になり、生涯スポーツとして定着していく。ゆりかごから墓場まで、「する」「見る」「関わる」の観点で、全市をあげてスポーツへの関わりがある。 ○子供の運動能力は、学校への通学を始めとした日常の活動により磨かれる面も大きく、その基盤には安全・安心な地域がある。 ○子供の体力・運動能力調査では、測定方法による誤差が特に小学校では大きいとも考えられ、正確なデータの収集のために、測定方法の研修などの検討も必要。
競技力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○子どものうちから一つの競技だけに取り組みせるのではなく、いろいろな競技を体験させていくことが、生涯スポーツへつながる。 ○将来につながる指導者の育成が大切であり、特に高校生を指導する方々にへの働きかけが重要。
スポーツを支える人材の発掘・育成	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちにスポーツは楽しいと伝えられる指導をしてほしい。 ○保育士、幼稚園教諭との関りとして、飯田女子短期大学との連携強化も考えられる。 ○スポーツ少年団でも資格制度が改定されるなど、スポーツに関する様々な資格化が進む中、取得や更新に関する負担軽減が一層求められる。
スポーツを通じたコミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のコミュニティを促進する方策の一つとしてスポーツを取り入れている。ワンバウンドふらば～るバレーなどは各地で取り入れられている。市民の誰もが参加しやすいコミュニティスポーツの交流の場を引き続き充実させることが必要。 ○リニア中央新幹線の開通を見据え、地理的な日本の中心にふさわしい活動拠点の整備や活動内容を検討する必要がある。

スポーツ施設の整備・充実	<p>○スポーツ施設については新たな機能が毎年作られている。施設の維持も必要だが、新たな機能も順次加えていくことが必要。</p> <p>○施設使用料が無料になるのはありがたいが、受益者の負担もないと施設を大事にしようという意識が薄くなるのではないか。</p>
--------------	---

(3) 令和2年度飯田市スポーツ推進審議会委員

氏名	所属団体等	備考
大蔵 豊	(公財)飯田市スポーツ協会(専務理事)	スポーツ団体 飯田市スポーツ協会
羽生 功樹	飯田市スポーツ少年団(本部長)	スポーツ団体 スポーツ少年団
小池 智津	飯田ママさんバレーボール連盟	スポーツ団体 女性
平栗 晃	卓球	スポーツ団体 高齢者
伊藤美佐子	飯田市教頭会(小学校)	学校体育関係者 小学校
大澤 忠史	飯田市教頭会(中学校)	学校体育関係者 中学校
三石 義弘	飯田市スポーツ推進委員協議会	スポーツ団体 スポーツ推進委員協議会
森本美保子	飯田市連合婦人会	知識経験者
富田 泰啓	長野県ウォーキング協会	スポーツ団体 長野県ウォーキング協会
羽場 竜也	飯田市公民館長会	知識経験者
中田 一雄	長野県障がい者スポーツ指導者協議会	スポーツ団体 障がい者

(4) 飯田市スポーツ推進審議会条例(抜粋)

(設置)

第1条 市民体育振興の施策に努め、市民生活の向上を図るため、スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第31条の規定により、飯田市スポーツ推進審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

(組織)

第2条 審議会は、委員12人以内をもって組織する。

(委員)

第3条 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 教育委員会の委員
- (2) スポーツ団体関係者
- (3) 学校体育関係者
- (4) 知識経験者

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(会長および副会長)

第5条 審議会に会長1人、副会長1人を置き委員が互選する。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会の会議は、会長が招集し会長が議長となる。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(幹事)

第7条 審議会に幹事若干人を置き、教育委員会事務局職員のうちから教育委員会が任命する。

2 幹事は会長の命を受けて審議会の事務に従事する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は教育委員会が別に定める。